

### 【委員の主な発言要旨】

- ・降雨に含まれる栄養塩等については、最近はリンの供給源のひとつと言われている。降水の影響を考えるのであれば、濁水とともに流下してくる栄養塩類になってくる。
- ・植物プランクトンは、国の河川水辺の国勢調査でダムにおいて調査されている。河川については付着藻類の方が環境に強く影響するので、付着藻類をしっかりと調べるとよい。
- ・河床の上に堆積物が載ってしまうと、付着藻類が育たなくなってしまうことがある。河床の状況調査をした方がよい。
- ・水質調査項目の大腸菌は、今年の10月から環境基準が変更となりCFU（大腸菌数）になった。過去のデータの連続性を見るならMPN（大腸菌群）で計った方がよいし、法令に合わせるならCFUが良い。混在しないよう留意が必要である。
- ・河口閉塞の過去の状況を調べるには空中写真の判読が有効と思われる。海岸線周辺の地形と神戸川の河口付近を比較してみたい。
- ・シミュレーションをどこまでするかによるが、河川の断面の資料が必要であり、なければデータをとっておいた方がよい。